



# CRÉDIT AGRICOLE S.A.

2012年2月23日パリ

本書は、英語による Crédit Agricole SA 2011 年第4四半期報告書の抄訳であり、英語による原文がすべての点においてこの日本語の抄訳に優先します。疑義がある場合には英語の原文に従い解釈をお願いいたします。

## 2011年度業績

**2011年度、クレディ・アグリコル・グループは  
困難なビジネス環境下で堅調な事業展開**

**業務収益性は良好  
事業適応計画調整前の営業総利益で5.9%増**

**リテール・バンキングは堅調な事業展開  
地域銀行の顧客預かり資産は前年同期比5.3%増**

**地域経済のファイナンスに対する力強い貢献  
2011年度に地域銀行とLCLが取組んだ新規ローンは960億ユーロ**

### 2011年度のクレディ・アグリコル・グループ\*

収益: 351億ユーロ (2.7%増)

営業総利益: 135 億ユーロ(1.1%増)

純利益グループ帰属分: 2010年度の36億ユーロに対し8億1,200万ユーロ

コア・ティア1レシオ、フロアー・ベース: 9.0%、アンフロアー・ベース: 10.2%

EBA レシオ: 9.6%

\*クレディ・アグリコルS.A.と地域銀行100%を含む

### 2011年度のクレディ・アグリコルS.A.

収益: 207億8,300万ユーロ、3.3%増

営業総利益: 71億7,100万ユーロ、3.3%増

ギリシャ関連コスト (PSI とエンポリキ): -23億7,800万ユーロ

事業適応計画関連コスト: -4億8,200万ユーロ

2011年度第4四半期に認識された減損費用: -25億3,200万ユーロ

純利益グループ帰属分: -14億7,000万ユーロ

ティア1レシオ: 11.2%、内コア・ティア1レシオ: 8.6%

## クレディ・アグリコル・グループ

2011年度、クレディ・アグリコル・グループの純利益グループ帰属分は8億1,200万ユーロとなりました。これは堅調な業績結果を反映しており、それによって当グループがギリシャ関連のコストや、2011年秋に実施された事業適応計画(The adaptation plan)のコスト、2011年12月14日に発表された「のれん代」償却費用を吸収することができました。

2011年度下半期に、マクロ経済の環境が著しく悪化した中で、クレディ・アグリコル・グループは事業展開をしてきました。こうした経済環境の悪化は、欧州経済の減速、欧州ソブリン格付けの格下げ、特にギリシャの厳しい財政状況、金融市場の不安感が要因となっています。バーゼルⅢとより厳格な自己資本規制の導入の加速もこの厳しい環境の要因となりました。

クレディ・アグリコルS.A.の会長ジャン・マリ・サンデルは、以下のことを強調しています。「こうした環境において、フランス経済に対する金融サービスの主要提供者として、当グループは地域経済を支えることに積極的に注力していることを示しました。地域銀行とLCLを通してリテール銀行が取組んだ新規ローンは960億ユーロに達しました。」

こうした着実な事業展開は、当グループの全ての事業部門にわたり反映されています(エンポリキを除く)。収益は前年同期比2.7%増の350億ユーロに達しました。とりわけ地域銀行は、住宅ローンの貸出資産が5.7%増加した融資業務や、1年間で4.2%の伸びを見せたビジネス向けローンなど、全ての顧客セグメントを引き続きサポートしています。それによりオン・バランスシートの預金残高も引き続き伸びました(6.8%増)。

費用が3.7%増加しましたが(地域銀行のために一元化された共通の情報システム導入を目指すニース・プロジェクトのための支出を除く)、2011年度の営業総利益は1.1%増の135億ユーロとなりました。

リスク関連費用の29.2%の増加は、主にギリシャ国債の平均74%の減損費用を反映しています。

税引前利益(40%)と純利益の大幅な減少は、「のれん代」償却費用と関連会社への出資分の減損によるものです。

ソルベンシーに関しては、2011年12月31日現在、クレディ・アグリコル・グループのEBAレシオは9.6%でした。コア・ティア1レシオはアンフロアー・ベースでは2011年9月30日から20ポイント低下し、10.2%に達しました。この低下は、主にCRD3の導入によるものです。フロアー・ベースでは、クレディ・アグリコル・グループのコア・ティア1レシオは9.0%に上昇しました。

## クレディ・アグリコルS.A.

2011年度の業績見直しのために、2012年2月22日にジャン・マリ・サンデルを議長とするクレディ・アグリコルS.A.の取締役会が行われました。

純利益グループ帰属分は、-14億7,000万ユーロとなりました。クレディ・アグリコルS.A.のCEO、ジャン・ポール・シフレは、世界的な景気低迷にもかかわらず、満足のいく業績結果を得られたと述べました。今回の業績結果は、とりわけギリシャ国債の大幅な減損、エンポリキの経営状況、そして2011年12月14日に発表された新環境-即ち資産の圧縮-に適応することを目的とした事業適応計画を反映して

います。

「事業適応計画のコストとギリシャ関連のコストを除いた場合、純利益グループ帰属分は39億2,200万ユーロでした。これは、収益が4.9%増加し、費用が抑えられ(僅かに0.4%増加)、営業総利益が13.2%増加し、リスク関連費用が11.3%増加したことを反映しています。」とクレディ・アグリコルS.A.の会長ジャン・マリ・サンデルは説明しています。

リテール・バンキングと資産運用管理の事業部門では、収益及び収益性の増加を示しました。純利益グループ帰属分では、フランスのリテール・バンキング部門が3.4%増、資産運用部門(アムンディ)が0.9%増、CACEISが15.1%増、プライベート・バンキング部門が5.9%増となっています。2つの事業部門-CIBと専門金融サービス-は9月以降、事業部門の見直しに入ったものの、1年間を通して満足のいく業績を達成しました。

ギリシャ経済は、この1年間、悪化の一途を辿りました。その結果、エンポリキの営業損失は増加しました。エンポリキがクレディ・アグリコルS.A.への資金依存の水準を引き下げするための措置がとられました。2011年12月末時点で55億ユーロまで引き下げ、9ヶ月間で半分の水準まで削減することができました。更に、エンポリキへの出資と繰延税金資産の一部を取り崩しました。最終的に、クレディ・アグリコルS.A.は、エンポリキと保険部門の双方において、当グループが保有していたギリシャ国債の平均74%を減損処理しました。ギリシャの財政危機は、純利益グループ帰属分に全体で23億7,800万ユーロの損失を与えました。

昨年夏からの金融市場のイベントを受け、クレディ・アグリコルS.A.は2011年6月から2012年12月の間に負債レベルを500億ユーロ削減する計画の導入を決定しました。これは12月に発表された事業適応計画によって完了し、従業員関連のコストのほとんどは2011年度第4四半期に引き当てられました(4億8,200万ユーロ)。

事業適応計画は、クレディ・アグリコルS.A.の事業活動、特に法人顧客に対する販売とサービスの提供に再び焦点を当てているCIB部門でのポートフォリオを合理化することを目的としています。これには、地理的な見直し、株式デリバティブやコモディティ取引を含む特定のオペレーションの売却などが含まれています。その結果、CIB部門はバランスシートを圧縮し、コスト・ベースを調整し、収益の多様化の中で手数料収入を増やすことにより、厳しい環境の中で利益を生むビジネスモデルを採用することになります。同様に、消費者金融部門、リース・ファイナンス部門、ファクタリング事業においては、数多くのローン・ポートフォリオを売却します。

クレディ・アグリコルS.A.は、2011年度の中・長期債券発行プログラムの120%を達成しました。これは当初のプログラムよりも44億ユーロ増額しています。2012年度の発行プログラムは、市場で120億ユーロの調達計画に対し、既に37%まで完了しています。2011年度下半期には、短期負債が640億ユーロ減少し、1,060億ユーロになりました。同時に流動性準備金は、2011年度第4四半期に70億ユーロ補充され、中央銀行への預金を除いて1,100億ユーロに達しました。

適応計画を進める事業部門の一般的な状況と新しい見通しを踏まえて、当グループは少数株主持分の減損費用と「のれん代」償却費用12億ユーロに加えて、第4四半期に13億ユーロの「のれん代」償

却費用を認識しました。

クレディ・アグリコルS.A.のCEO、ジャン・ポール・シフレは、「事業適応計画のもとで対応策が迅速に実施されており、またクレディ・アグリコルS.A.の健全なファンファメンタルズに支えられて、当グループは経済、金融の新たなフレームワークに対処していきます。」と強調しました。

取締役会は、年次総会で発表された2011年度の配当支払いを提案しない、という決定を再確認しました。

## 社会的、環境的責任

Sustainalytics社による2011年度末の最新のランキングでは良い評価を得ましたが(世界の金融機関156社中、16位)、それに続いてクレディ・アグリコルS.A.はStoxx Global ESG Leadersの指標にも初めて採用されました。クレディ・アグリコルS.A.は、現在4つの主要な社会的、環境的責任指標に含まれています。それらは、ASPIユーロゾーン、FTSE4Good、ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ指標(DJSI)、ストックス・グローバル・ESG・リーダーズ指標です。

当グループは、我々の社会的、環境的責任が企業生命の鍵となるように、あらゆる手段を講じています。2011年度、クレディ・アグリコルS.A.は「コミットメント2014」で発表したように、FReDと名付けたRSE(経済的、社会的、環境的責任)の取り組みを開始しました。FReDは、RSEの3つの柱との取り組みであり、当グループの従業員には、これら3つの柱の実現にコミットしてもらうよう、働きかけています。各部門がそれぞれの抱負と、推進状況に目標を掲げ、それらは独立した監査人により評価、記録されます。FReDの目的は、クレディ・アグリコルS.A.グループのパフォーマンス指標の計算を可能にすることであり、このパフォーマンス指標はマネージャーの様々な賞与の査定をする際に考慮にいられます。2011年度、FReDは以下の事業を対象としました。その事業部門とは、クレディ・アグリコルS.A.、LCL、アムンディ、CA-CIB、CAアシュアランス、CAプライベート・バンキング、CAL&F、カセイス、カリパルマです。

2011年度、クレディ・アグリコルS.A.はライブリーフズ(Livelihoods)ともパートナー契約を締結しました。これは南欧諸国地方のコミュニティーをターゲットにした二酸化炭素排出削減量ファンドであり、持続可能な農業作業と森林破壊なしでアクセスできる農村エネルギーのプロジェクトを通して、維持可能な天然エコシステムと森林、土壌回復を促進しています。

最後に、クレディ・アグリコルS.A.と39の地域銀行は、Restos du Coeurを通して100万食を提供したり、Fondation Cr dit Agricole Pays de Franceに1,000万ユーロ寄付を増やすといった方法で、社会的な絆を示してきました。これらはフランスの地域の文化的、歴史的、経済的遺産に関連するプロジェクトをサポートすることを目的とした、国内公共サービスに対する企業としての永続的基礎となっています。

## 決算スケジュール

2012年5月11日	2012年第1四半期決算発表
2012年5月22日	クレディ・アグリコルS.A.年次総会
2012年8月28日	2012年上半期決算発表
2012年11月9日	2012年第3四半期決算発表

## クレディ・アグリコルS.A. 連結決算

(in millions of euros)	Q4-11	Change Q4/Q4	2011	Change 2011/2010
Revenues	4,663	(4.0%)	20,783	+3.3%
Operating expenses	(3,780)	+10.5%	(13,612)	+3.2%
<b>Gross operating income</b>	<b>883</b>	<b>(38.6%)</b>	<b>7,171</b>	<b>+3.3%</b>
Cost of risk	(1,859)	x2.5	(5,657)	+49.8%
<b>Operating income</b>	<b>(976)</b>	<b>nm</b>	<b>1,514</b>	<b>(52.2%)</b>
Income from equity affiliates	(725)	(28.3%)	229	x3.5
Net gain/(loss) on disposal of other assets	15	nm	5	nm
Change in the value of goodwill	(1,575)	x58.3	(1,934)	x4.3
<b>Pre-tax income</b>	<b>(3,261)</b>	<b>x9.0</b>	<b>(186)</b>	<b>nm</b>
Tax	195	+35.7%	(1,026)	+16.9%
Net income from discontinued activities	-	nm	14	(33.8%)
<b>Net income</b>	<b>(3,066)</b>	<b>x15.0</b>	<b>(1,198)</b>	<b>nm</b>
Minority interests	1	(99.0%)	272	(44.4%)
<b>Net income Group share</b>	<b>(3,067)</b>	<b>x9.4</b>	<b>(1,470)</b>	<b>nm</b>

2011年度の収益は前年同期比3.3%増の208億ユーロ(第4四半期は47億ユーロ)となりました。営業費用は年間を通して抑えることができました。2011年度第4四半期の営業費用は、事業適応計画(The adaptation plan)のコストを除いた場合、前年同期比3.2%増加しました。

2011年度の営業総利益は、3.3%増の72億ユーロに達しました。事業適応計画のコストを除いた場合、2011年度第4四半期の営業総利益は前年同期比6.7%増加しました。

2011年度のリスク関連費用は、欧州包括合意によるギリシャ支援策のための13億ユーロとエンポリキのリスク関連費用12億ユーロを含め、57億ユーロに達しました。これらの影響が無かった場合には、リスク関連費用は11.3%増に抑えられたでしょう。

ローン棄損費用(顧客とのリース・ファイナンス取引を除く)は230億ユーロに達し、2010年12月31日現在では顧客及び銀行間ローン残高合計の4.3%に相当したのに対し、2011年12月31日現在では4.6%に相当しました。ローン棄損費用は、2010年12月31日現在で50.3%までが特定引当金でカバーされていたのに対し、2011年12月31日現在では54%までが特定の引当金でカバーされています。引当金を含めて、不良債権カバー・レシオは69.4%となり、2010年12月末に比べて360ベース・ポイント上昇しました。

関連会社からの収益は、関連会社への出資分減損9億8,100万ユーロのマイナス影響額を含みます(バンキターが6億1,700万ユーロ、BESが3億6,400万ユーロ)。注目すべきことは、2010年のマイナス影響額には、インテサ・サンパオロS.p.A.の持分の連結除外による影響額12.4億ユーロが含まれていたことです。

「のれん代」償却費用は、第4四半期の事業適応計画に関連する-15億7,500万ユーロと2011年度第2四半期に計上されたエンポリキへの出資分の減損分3億5,900万ユーロを含めて-19億3,400万ユーロに達しました(第4四半期の事業適応計画に関連する費用は、法人及び投資銀行部門の10億5,300万ユーロ、リース・ファイナンス部門の2億4,700万ユーロ、国際リテール・バンキング部門の2億7,500万ユーロを含みます)。尚、2010年は、第2四半期のエンポリキへの出資分の減損の一部-4億1,800万ユーロが含まれています。

10億2,600万ユーロの税引後(2010年比16.9%増。これは保険の資産移転譲渡税によるプラスの影響額を含みます)、クレディ・アグリコルS.A.の純利益グループ帰属分は、前年度の純利益12億6,300万ユーロに対し14億7,000万ユーロの損失となりました。第4四半期は、2010年第4四半期の3億2,800万ユーロの損失に対し、30億6,700万ユーロの損失となりました。

### 欧州包括合意によるギリシャ支援策の影響

€m	Q2-11			Q3-11			Q4-11			Total Q2+Q3+Q4
	Emporiki	Insurance	Total	Emporiki	Insurance	Total	Emporiki	Insurance	Total	
Cost of risk	(71)	(131)	(202)	(141)	(764)	(905)	(34)	(186)	(220)	(1,327)
Net impact	(71)	(94)	(165)	(141)	(526)	(667)	(34)	(144)	(178)	(1,010)
Net impact Group share	(65)	(81)	(146)	(134)	(503)	(637)	(32)	(128)	(160)	(943)

2011年度第4四半期は、減損比率は平均74%に増加しました。

### 事業適応計画実施による財務及び会計上の影響

2011年度、事業適応計画並びに追加策の実施による財務及び会計上の影響は、全体で30億1,400万ユーロに達しました。

減損費用を除くコストは、4億8,200万ユーロに達しました。CIB部門のポートフォリオの売却は収益に2億5,800万ユーロのマイナスの影響を与えました。専門金融サービス部門とCIB部門では、全ての雇用調整策費用が、それぞれ5,700万ユーロ、3億3,600万ユーロ計上されました。専門金融サービスの事業部門のポートフォリオの売却コスト(9,900万ユーロ)は、リスク関連費用に含まれました。

この結果、リスク加重資産は80億ユーロ削減されました。

	一定為替レートにおける 2011年6月30日から 2011年12月31日間の 資金調達削減額 (10億ユーロ)	一定為替レートにおける 2011年6月30日から 2012年12月31日間の 資金調達必要額削減目標 (10億ユーロ)	事業適応計画が2011年度 第4四半期純利益に与えた 影響額 (のれん代償却費用を除く) (百万ユーロ)
リテール・バンキング部門	(9)	(23)	-
専門金融サービス部門	(1)	(9)	(103)
CIB部門	(11)	(18)	(379)
合計	(21)	(50)	(482)

**減損費用は、25億3,200万ユーロに達しました。**このうち、13億ユーロは、事業適応計画と直接関連しており、12億3,200万ユーロは、経済環境の著しい悪化によるものです。同計画のもとで、当グループはCIB部門の「のれん代」償却費用10億5,300万ユーロ、リース・ファイナンス&ファクタリングの「のれん代」償却費用2億4,700万ユーロを認識しました。クレディ・アグリコルS.A.の純利益グループ帰属分は、バンキター(6億1,700万ユーロ)とBES(3億6,400万ユーロ)の少数株主持分の減損と、国際リテール・バンキングの子会社への投資資本の減損によるマイナスの影響を受けました(カリパルマが1億9,100万ユーロ。CAウクライナが6,000万ユーロ)。

## **財務状況**

2010年第4四半期に発表されたように、2011年12月23日にクレディ・アグリコルS.A.は、地域銀行への出資に伴いクレディ・アグリコルS.A.に課せられていたリスク加重資産をカバーする保証メカニズムを導入しました(2011年12月31日現在でリスク加重資産は527億ユーロ)。それらの保証は、2つの証券の部分償還に沿って導入されました。2つの証券とは、中核的自己資本には算入されますが、バーゼルⅢの規定によりその構成要素として認識されるものではありません。それらは、株主前払い金と劣後債券(少数株主持分に含まれるハイブリッドの証券)を指しています。この変換保証は、コア・ティア1レシオに中立的な影響を与えました(+10ポイント)。変換保証はクレディ・アグリコルS.A.内にある地域銀行の口座の現預金でカバーされるため、この取引は流動性に対しても中立的です。当取引は、フランス金融市場監督庁の定める条例に従っており、自己資本強化に関するクレディ・アグリコル・グループ内部の柔軟性を反映しています。

2011年度、クレディ・アグリコルS.A.は更に財務健全性を高めました。2011年12月31日現在、コア・ティア1レシオは8.6%で、2010年12月31日現在よりも20ベース・ポイント高く、2011年9月30日現在よりも20ベース・ポイント低い結果となりました。

第4四半期中のこの低下は、主にCRD3(バーゼル2.5)の初めての適用によるもので、マーケット・リスクが248億ユーロ増加する結果となりました(CA-CIBに限定)。この監督規制の変更により、コア・ティア1レシオが60ポイント低下しました。その一部は、主にCA-CIBの事業に関連するリスク加重資産の減少により相殺されました。またコア・ティア1レシオの低下は、事業適応計画の第1段階の導入を反映しています。クレディ・アグリコルS.A.の2011年12月31日現在のティア1及び全体的なソルベンシー比率は前年同期比でそれぞれ11.2%、13.4%に上昇しました。2011年9月30日と比較すると、それぞれ20ベース・ポイント、40ベース・ポイント上昇しています。

## **流動性**

クレディ・アグリコル・グループの短期負債は2011年6月30日現在の1,850億ユーロに対し、2011年12月31日現在合計で1,270億ユーロに達しました(主に当グループの資金部門が市場参加者と相対で調達した370日以内償還の短期既発債)。当グループは、手元剰余金を確保しており、中央銀行のオーバーナイト預金はユーロと米ドルで6月末に150億ユーロ保有していたのに対し、12月末では(法定準備金に加えて)210億ユーロ保有していました。

当グループは、米ドルの流動性不足を容易に切り抜けることができました。CIB部門は、米ドルでの資金調達必要額を116億米ドル削減しました。米国市場での短期資金調達額は、短期総負債の僅か4%を占めており、米ドル建ての負債比率は18%となっています。通貨別では、短期負債の53%がユーロ建て、ポンドが8%、日本円が5%、スイス・フランが1%、残りの15%がその他の様々な通貨で構成されています。国別では、フランスが短期債務の45%を締め、アイルランドが6%を占めています。英国、スイス、日本、ベネルクス諸国、米国がそれぞれ4%を占めています。ロシアとドイツはそれぞれ2%となっています。

2011年6月から12月の間に、9月28日に発表された負債削減目標に沿って、中央銀行への預金を差し引いた短期負債が640億ユーロ削減されました。一方、中央銀行への預金の余剰流動性は同期間で60億ユーロ増加しました。短期負債の削減は、一つには主に事業部門の資金調達必要額が構造的に213億ユーロ削減されたことと、二つ目は107億ユーロの短期債務に対して中・長期債務で置き換えたことにもよるものです。また三つ目には、中央銀行へのレポやアクセスにより流動性準備金を使用したことが削減の要因です。従って、2011年9月28日に発表された構造的資金調達の必要額500億ユーロの計画的削減は、スケジュールよりも予定より早く進行しています。

2011年12月31日現在、市場で現金化が可能な資産、或は中央銀行からファイナンスを受けられる実質的資産は、中央銀行への預金を除いて1,100億ユーロに達しました。2011年9月30日現在では70億ユーロでした。それらは短期純負債額を超えています。新規の準備金は、当グループ内で証券化に利用可能な高信用度の資産基盤により積み増しされました。

2011年度、クレディ・アグリコルS.A.は、市場で220億ユーロ調達するために考案された中・長期債のMTN発行プログラムの120%を達成しました。これにより、最初のプログラムを44億ユーロ増額しました。中・長期債発行の平均年限は6.4年で、平均スプレッドはミッド・スワップに対し84.8ベース・ポイントです。2012年度のプログラムは120億ユーロ調達するよう設定されています。2012年2月末現在では、当グループは44億ユーロ(37%)調達しており、平均年限は9年、平均スプレッドはスワップ・レート中値に対し166.6ベース・ポイントとなっています。当グループは、シニア普通社債のプライマリー市場にアクセスする能力があることを証明し、1月には12.5億ユーロの7年EMTN債を発行しました。スプレッドはミッド・スワップに対し208ベース・ポイントでした。

同時に、当グループはリテール銀行の拠点網や専門子会社を通して、追加の資金調達源に対するアクセスを開拓しています。地域銀行の拠点網を通して販売されるクレディ・アグリコルS.A.発行の債券は2011年度で43億ユーロに達しました。LCLとカリパルマの拠点網を通して発行した債券は2011年度に50億ユーロ調達しました。CA-CIBは、主に私募のストラクチャード・ノートで105億ユーロ発行しました。2011年度に事業適応計画の一部として、クレディ・アグリコル消費者金融は、主に22億ユーロを証券化によって調達しました。

## 部門別決算

### 1. フランス国内のリテール・バンキング

#### 1.1. - クレディ・アグリコル地域銀行

2011年度、地域銀行は堅調な業績展開となりました。クレディ・アグリコルS.A.の純利益グループ帰属分に対する寄与は、前年同期比5.4%増の10億800万ユーロとなりました。第4四半期の寄与は、前年同期比2.8%増の2億1,600万ユーロでした。2011年度の地域銀行の総営業利益は、前年同期比5.5%増の50億3,500万ユーロとなりました。

(in millions of euros)	Q4-11	Change Q4*/Q4	2011	Change 2011/2010
Net income accounted for at equity (around 25%)	216	+2.8%	854	+3.6%
Change in share of reserves	-	nm	154	+15.8%
Equity affiliates	216	+2.8%	1,008	+5.4%
Net income Group share	216	+2.8%	1,008	+5.4%

こうした業績結果は、全てのオペレーションにおいて極めて厳しい条件が課されているにもかかわらず、地域銀行の支店拠点網内では1年間着実な業務展開をしてきたことを示しています。

2011年度の融資業務において、地域銀行は顧客並びにフランス経済に対するファイナンスの提供に継続してコミットしました。その結果、ローン総残高は前年同期比4.1%増のほぼ3,910億ユーロに達しました。残高の伸び率は、主に住宅ローンの融資に牽引されました。住宅ローン残高は12ヶ月で5.7%増の2,140億ユーロに達しました。需要が低迷したために前年同期比3.1%減となった消費者金融部門を除いて、全てのセクターに対する貸出しが拡大しました。中小企業ローンとスモール・ビジネスのローン残高は、2010年12月31日から2011年12月31日の間に2.5%増加しました。一方、地方自治体や農業従事者に対する貸出しは同期間でそれぞれ5.4%、0.4%増加しました。

地域銀行では、預金残高が堅調な水準を維持し、オン・バランスシートの商品は目覚ましい伸びを示しました。顧客資産は前年同期比1.3%増加し、2011年度末現在で5,500億ユーロとなりました。これにはオン・バランスシートの預金が3,160億ユーロ含まれており、定期預金口座と預金（前年同期比15.2%増）、預金口座（6.8%増）への流入に牽引されました。2011年度の要求払い預金と住宅購入積立金口座への流入は、それぞれ1.5%、1.0%増加しました。オフ・バランスシートの預金は、2010年12月から2011年12月の間に3.6%縮小しました。これは経済状況の悪化、証券、投資信託、従業員投資ファンドなどの市場価格の下落などが要因です。生命保険は、第4四半期が厳しい状況だったにもかかわらず、1年間で資金が1.5%増加し、好ましい傾向を維持しました。

貸出/預金比率については、特に2011年度第2四半期中に改善がみられましたが、年間で0.8%改善し、2011年12月31日現在で129.0%でした。

ビジネスの面では、地域銀行は2011年度の1年間でも引き続き新規顧客を増やしました。例えば、ダブル・アクションカードの発行数は、2010年末から2011年度末の間に6.5%増加しました。また、保険の新規契約数は同期間で4.5%増加し、住宅・損害保険は6.3%増加、損害賠償責任保険は3.3%増加しました。

2011年度の収益(グループ内取引調整後)は、前年同期比で1.4%増の134億ユーロに達しました。2011年度の第4四半期の収益は、33億ユーロを上回りました。顧客ビジネスによる収益は2010年末から2011年度末の間に1.1%増加し、住宅購入貯蓄プランを除く顧客ビジネスは、同期間で1.2%増加しました。従ってこの収益増は、この取引高の増加と貸出金利鞘の拡大の影響によるものです。手数料収入は、主に保険業務の手数料が4.4%増加したことにより、1年間で1.3%増加しました。

地域銀行の費用は、ニース・プロジェクトに関連する投資を反映しており、この費用を含めて前年同期比4.0%増加しました。コスト比率は、結果的に同期間で1.4ポイント上昇し、2011年度末には55.0%に達しました。

2011年度のリスク関連費用は、引当金が著しく削減されたことにより、大幅に減少しました。一方、地方銀行は特定の引当金に対して高水準の割当を維持しました。2011年度のリスク関連費用は、前年同期比26.2%減少し、-10億800万ユーロとなりました。2011年度第4四半期には、引当金の費用は3,500万ユーロに達しました。リスク関連費用は、2010年12月31日現在のローン残高に対して32ベース・ポイントだったのに対し、2011年12月31日現在ではローン残高に対し4ベース・ポイントになりました。2010年末のローン残高に対する引当金合計はノンパフォーミング・ローンの107.5%だったのに対し、2011年度末は108.8%となり、ローン残高の2.4%で安定しました。

結果的に、2011年度地域銀行部門のクレディ・アグリコルS.A.の純利益グループ帰属分に対する寄与は、これまでの最高水準の10億800万ユーロに達し、前年同期比で5.4%増加しました。

## 1.2. - LCL

(in millions of euros)	Q4-11	Change Q4/Q3	2011	Change* 2011/2010
Revenues	920	(1.4%)	3,822	(1.5%)
Operating expenses	(642)	+3.4%	(2,497)	(0.6%)
Gross operating income	278	(11.0%)	1,325	(3.3%)
Cost of risk	(69)	+13.1%	(286)	(20.2%)
Operating income	209	(17.0%)	1,039	+2.7%
Equity affiliates	-	nm	-	nm
Net gain/(loss) on disposal of other assets	1	x6.0	1	nm
Change in value of goodwill	-	nm	-	nm
Pre-tax income	210	(16.5%)	1,040	+3.1%
Tax	(73)	(6.2%)	(330)	+9.0%
Net income (after tax) from discontinued activities	-	nm	-	nm
Net income	137	(21.2%)	710	+0.6%
Minority interests	7	(20.9%)	35	+0.6%
Net income Group share	130	(21.2%)	675	+0.6%

\*2011年度第1四半期から採用された会計処理方法に従って、2010年度分の支払い手段からの手数料は費用から収益に再分類。

2011年度、貸出資産が前年同期比6.9%増加し、2011年度末に878億ユーロに達したことが示すように、LCLはフランス経済に対して金融サービスを提供する役割を確認しました。この伸び率は、主に住宅ローンの貸出(2011年度で前年同期比11.7%増)と中小企業及びスモール・ビジネス対象のローン(前年同期比でスモール・ビジネス向け融資の組成は27.8%増)によって牽引されました。

2011年度は、顧客預金による資金流入も高水準を維持し、前年同期比2.6%増加しました。増加分のほとんどがオン・バランスシートの預金によるものです。第4四半期もその伸び率は加速し、預金高は1年間で16.7%増加し、12月末には760億ユーロに達しました。

住宅購入貯蓄のための預金(2010年12月から2011年12月の間に1.9%減少)を除いて、全ての種類のオン・バランスシートの預金はこの1年間で著しく増加しました。当座預金は12.5%増、要求払い預金は12.2%増、定期預金と人気貯蓄プラン「PEP」は44.1%増となりました。2011年度には、オフ・バランスシートの預金は、経済とマーケット状況に悪影響を受け、2010年12月末から2011年12月末の間に8.6%減少しました。この減少は、証券、投資信託の両方のセグメントでの減少によるものです。生命保険の運用資産は引き続き安定し、486億ユーロでした(+0.2%)。

LCLの貸出/預金比率は、1年間で7.5%改善しました。2010年末の122.8%から2011年度末には115.3%となりました。

2011年度の収益は、支払い手段に対する手数料の再分類を含めて、前年同期比1.5%減少しました。下半期は、金利差益が預金のコスト上昇によって縮小しました。金利鞘は、1年間で1.9%以上の縮小となりました。同時に、2011年度の手数料収入は、主に証券管理業務の減少と2011年10月1日から始まった支払い交換手数料の削減によって、前年同期比1.1%減少しました。

営業費用は抑えられて、2011年度には前年同期比0.6%減少しました。これには、2010年に支払い手段に対する手数料を費用から収益に再分類した影響も含まれています。コスト比率は、2011年度末現在で65.3%でした。

リスク関連費用は、2010年12月末から2011年12月末の間に20.2%減少しましたが、2011年度第3四半期と第4四半期の間では13.1%上昇しました。この1年間で、ファイナンスの件数は急激に増加しましたが、その一方で、2011年第4四半期のローン残高の相対的リスク関連費用は前年度の43ベース・ポイントから30ベース・ポイントに低下しました。ローン残高に対するリスク関連費用は2010年末には2.6%でしたが、2011年12月末には2.5%に低下しました。カバー・レシオは引当金も含めて同期間で2%上昇し、75.5%となりました。

2011年度の純利益グループ帰属分は、6億7,500万ユーロ(2010年比、0.6%増加)でした。内、第4四半期の純利益グループ帰属分は1億3,000万ユーロでした。

## 2.国際リテール・バンキング

2011 年度、インテサ・サンパオロから買収したカリスペツィア(Carispezia)とその 96 の支店は、当社のイタリアの拠点網に統合されました。しかし、ギリシャの著しい国内景気悪化と、ギリシャほどではないにせよ、国際リテール・バンキングの拠点を置く他の国々の景気悪化によって、当事業部門の業績はマイナスの影響を受けました。エンポリキのリスク関連費用は、一部はギリシャ財政支援計画への参加によって増加しました。同時に、第 4 四半期には、2 つの関連会社(BES とバンキター)への出資分の減損 9 億 8,100 万ユーロと 2 つの子会社(カリパルマと CA ウクライナ)への出資分の減損 2 億 7,500 万ユーロが、第 2 四半期に計上されたエンポリキへの出資分の減損 3 億 5,900 万ユーロに加えて計上されました。

2011 年度の当部門の純利益グループ帰属分は 26 億 100 万ユーロの損失となり、そのうち、第 4 四半期の損失は 15 億 2,400 万ユーロでした。

(in millions of euros)	Q4-11	Change Q4/Q4	2011	Change 2011/2010
Revenues	762	(0.9%)	3,068	+3.1%
Operating expenses	(585)	+19.6%	(2,104)	+7.8%
Gross operating income	177	(36.8%)	964	(5.8%)
Cost of risk	(513)	+66.1%	(1,846)	+27.8%
Operating income	(336)	x11.9	(882)	x2.1
Equity affiliates	(976)	nm	(911)	nm
Net gain/(loss) on disposal of other assets	7	(17.1%)	8	(9.4%)
Change in value of goodwill	(275)	nm	(634)	+42.1%
Pre-tax income	(1,580)	x30.5	(2,419)	x3.2
Tax	36	nm	(247)	+34.4%
Net income (after tax) from discontinued activities	-	nm	14	(32.4%)
Net income	(1,544)	x20.6	(2,652)	x2.9
Minority interests	(20)	nm	(51)	nm
Net income Group share	(1,524)	x16.9	(2,601)	x2.8

イタリアにおいては、カリパルマが、主に新店舗の統合により、その地位を強化しました。当銀行は、経済の悪化にもかかわらず、イタリアのマーケットにおいては、好業績を達成し、利益を生み出している銀行の一つです。

オン・バランスシート上の預金は、前年同期比で 18.4%増と大幅に増加しました。これはカリスペツィアとイタリアの新店舗による流動性増加によるものです。更に、カリパルマは貸出しも堅調な結果を生み、2010 年 12 月比でローン残高が 16.1%増加しました。しかしながら、2011 年度期末は特にビジネス・ローンの需要が減少したことによる貸出しの減少によってマイナスの影響を受けました。

2011 年度の業績結果は、健全なオペレーション管理を反映しています。一定の会計範囲での顧客ビジネスの収益は、下半期の預金の関連費用が増加したにもかかわらず前年同期比で 4.9% 上昇しました。営業費用は、統合関連費用の影響を受け、第 4 四半期 1,400 万ユーロ、2011 年度では 4,700 万

ユーロとなりました。統合費用を除く一定の費用範囲での営業費用は抑えられて、2011年度第4四半期では前年同期比1.3%の減少、2011年度全体では0.6%の増加に抑えられました。この営業費用で算出したコスト比率は、第4四半期は63.0%、2011年度が58.4%となりました。2011年度のリスク関連費用は、第4四半期に計上された法人向けローンの一部のための引当金の影響を差し引いた後83ベース・ポイントとなりました(2010年度は82ベース・ポイント)。カリパルマの寄与分も、第4四半期に計上された2億1,500万ユーロの出資分の減損の影響を受けました。2億1,500万ユーロのうち、2,400万ユーロは、少数株主持分によるものです。グループ帰属分の影響額は純額で1億9,100万ユーロでした。カリパルマは税控除を受けたことで、年間で8,900万ユーロの節税となりました。このうちの2011年度第4四半期分は6,600万ユーロでした。

全体では、カリパルマの純利益グループ帰属分に対する寄与は営業権の減損費用を除いて、1億8,100万ユーロでした(2011年度は前年同期比9.9%増)。また第4四半期は5,200万ユーロでした(前年同期比15.2%増)。

**ギリシャ**においては、エンポリキの業績結果は、第4四半期中の著しい景気の悪化と、国債の減損費用追加により悪影響を受けました。

エンポリキは、自らの資金調達源を拡げ、クレディ・アグリコル S.A.に対する資金調達の依存度を減らすために考案され、年初に開始されたリファイナンス方針を引き続き維持しています。ローン総残高は、前年同期比で1億ユーロ減少しました。この減少は、2011年度の引当金を強化する努力も同時に続けられたことで、ローン純残高の著しい減少につながりました。更に、競争が激化する中、エンポリキは1年間で預金のマーケット・シェアを増大させ、2011年度期末には44ベース・ポイント増の5.7%となりました。その結果、2011年度の貸出/預金比率における預金残高の不足分は、著しく改善されました。欧州中央銀行(ECB)からの資金調達は、2011年12月31日現在で18億ユーロに達しました。この他に、2012年期初の20億ユーロの株式発行に関連する13億ユーロの中・長期の信用供与による前払いによって、エンポリキ銀行はクレディ・アグリコル S.A.に対する資金調達依存度を削減することができました。クレディ・アグリコル S.A.からの資金調達は2011年3月31日現在の104億ユーロ、2011年9月30日現在の78億ユーロに対し、2011年12月1日現在では55億ユーロとなりました。クレディ・アグリコル S.A.からの自己資本額は13億ユーロとなっています(2011年3月31日現在10億ユーロ)。

こうしたギリシャ経済の厳しい状況、且つ資金調達コストの上昇により一段と業況が厳しくなったにも係らず、2011年度の収益は7億2,100万ユーロとなり、前年同期比で5.2%の減少に抑えられました。営業費用は、610名(第4四半期には454名)の人員削減を含めて、当銀行の事業再編に対する最大限の努力の結果、営業費用は前年同期比3.9%縮小しました。この人員削減により、年間で5,100万ユーロの費用を計上、(第4四半期では3,800万ユーロ)、エンポリキ銀行の4,100名(-12%)のスタッフを含む5,100名へ削減されました(前年比では11%削減)。営業総利益は、年間で9.9%減の1億4,900万ユーロとなりました。業務再編費用を除いて、コスト比率は75%以下に留まり、2010年度よりも僅かに1.3%高い72.4%となりました。

2011年度のコスト関連費用は、14億1,800万ユーロに達しました(38.7%増)。そのうち3億7,900万ユーロが第4四半期の費用となっています。コスト関連費用は、ギリシャ支援計画へのエンポリキの参加に

より大きな影響を受けました。第4四半期のギリシャ支援策に関する費用は3,400万ユーロで、2011年度では2億4,600万ユーロに達しました。これはギリシャ国債に対する総エクスポージャーの70%に相当します。更に、エンポリキは継続して経過年数の長いローンの引当金積増しを行いました。カバー率は2011年度末で54%に上昇しました(2011年度第3四半期より4%上昇)。そのうち、78%が法人ローンに対するカバー率となっています。NPLレシオは33.5%に増加し、2011年度第3四半期比で2.3%上昇しました。

全体では、2011年度第4四半期のエンポリキの純利益グループ帰属分は-3億5,200万ユーロとなりました。

**イタリアとギリシャ以外**では、他の当グループ会社がバランスのとれた貸出/預金比率を維持しました。2011年12月31日現在では、オン・バランスシート上の預金残高が85億ユーロ、総ローン残高が84億ユーロとなりました。これらのその他グループ会社の中では、CAポルスカ(CA Polska)が収益に大きく寄与し(寄与率43%)、続いてクレディ・デュ・モロッコ(Crédit du Maroc; 同23%)、CA エジプト(CA Egypt; 同19%)、CA ウクライナ(CA Ukraine; 同7%)、CA スルビヤ(CA Srbija; 同4%)、マダガスカル(Madagascar; 同4%)となっています。ポーランドでは、当グループのシェアが拡大しており、支店拠点網を刷新し、以前からある消費者金融ビジネス(ルーカス/Lucas)、リテール・バンキングのオペレーションであるクレディ・アグリコル・バンク・ポルスカ(Crédit Agricole Bank Polska)を展開しています。

2011年度の業績は出資分の減損を除き、様々な業績を反映して1億1,600万ユーロとなりました。収益では3.0%の減少、費用はほぼ横ばい、リスク関連費用は前年同期比で21.4%減少しました。ポーランドでは、その他のグループ会社が業績結果に2,800万ユーロ寄与しました。一方、モロッコとエジプトでのそれらの寄与は4,000万ユーロでした。加えて、10億4,100万ユーロの出資分の減損が、関連会社(BESとバンキター)とウクライナで計上されました。これはそれらの国の経済状況の悪化によるものです。

### 3. 専門金融サービス

(in millions of euros)	Q4-11	Change Q4/Q4	2011	Change 2011/2010
Revenues	956	(4.4%)	3,926	(0.5%)
Operating expenses	(480)	+8.8%	(1,744)	+0.6%
<b>Gross operating income</b>	<b>476</b>	<b>(14.9%)</b>	<b>2,182</b>	<b>(1.3%)</b>
Cost of risk	(606)	93.3%	(1,606)	+23.8%
<b>Operating income</b>	<b>(130)</b>	<b>nm</b>	<b>576</b>	<b>(36.9%)</b>
Equity affiliates	4	+25.0%	14	+16.7%
Net gain/(loss) on disposal of other assets	-	nm	-	nm
Change in the value of goodwill	(247)	nm	(247)	nm
<b>Pre-tax income</b>	<b>(373)</b>	<b>nm</b>	<b>343</b>	<b>(62.9%)</b>
Tax	18	nm	(242)	(26.5%)
Net income from discontinued activities	-	nm	5	nm
<b>Net income</b>	<b>(355)</b>	<b>nm</b>	<b>106</b>	<b>(82.3%)</b>
Minority interests	(22)	nm	15	(74.7%)
<b>Net income Group share</b>	<b>(333)</b>	<b>nm</b>	<b>91</b>	<b>(83.1%)</b>

2011年度第4四半期の**消費者金融部門**は2011年12月14日にクレディ・アグリコルS.A.が発表した事業適応計画(The adaptation plan)の初期段階の効果を反映しています。同計画の純利益グループ帰属分に対するマイナスの影響額は1億300万ユーロとなりました。そのうち5,700万ユーロが営業費用に計上された業務再編費用の引当金であり、9,900万ユーロがコスト関連費用に含まれるノンパフォーマンス・ローンの処分に関連するものです。税金による影響はプラスとなり、5,300万ユーロに達しました。

2011年度は、消費者金融マーケットが低迷しました。経済状況の悪化と監督規制強化に加え、当グループが運営するビジネスの減速によって、2011年度中の消費者信用残高の伸びは0.3%に留まり、現金需要は減少しました。2011年度の下半期の消費者金融による現金需要は、6億ユーロ減少しましたが、これはクレディ・アグリコル消費者金融のバランスシート上の顧客資産の減少を反映しています。さらに、外部での資金調達源の多様化、とりわけドイツでの新規預金獲得とフランス内での資産証券化によって、2011年6月30日から2011年度末の間に更に20億ユーロの流動性を得ることができました。

こうした極めて厳しい環境下でも、消費者金融部門は引き続き運営の効率性を高めてきました。事業適応計画以前のコストと比べて、営業費用は前年同期比で2.3%減少し、コスト比率は1年間で0.6%改善し、39.9%となりました。

事業適応計画のコスト調整後の2011年度の純利益グループ帰属分は、引き続き堅調で4億5,200万ユーロとなりました。2011年度第4四半期に-1億700万ユーロに達したアゴス(Agos)のポートフォリオの不良債権カバー・レシオが上昇したにもかかわらず、前年同期比で1.8%の減少となりました。

**リース・ファイナンス及びファクタリング**では、2011年度第4四半期の業績は減速したものの、引き続き業務は拡大しました。

**リース・ファイナンス部門**では、2011年12月31日現在の残高が199億ユーロとなり、前期比6.3%の増加率に対し、前年同期比では5.0%増にとどまりました。2011年度下半期は、事業適応計画における決定事項に歩調を合わせるため伸び率は減速し、2011年度第3四半期と第4四半期の残高は4%減少しました。現時点での優先課題は、フランスでの戦略的で収益性の見込めるパートナーシップにフォーカスすることです。

**ファクタリング部門**では、当グループの流動性の必要性に対応するため、伸び率は抑えられました。売掛債権は、フランスでの堅調なビジネス水準を背景に1年で599億ユーロに達しました(内国内分は390億ユーロの売掛債権、前年同期比9.6%の増、2011年度第4四半期は前年同期比4.9%の増)。

海外では売掛債権は安定しており、2010年第4四半期と2011年度第4四半期の間では、2011年8月のユーロファクターUK(Eurofactor UK)の売却を除き、僅かに0.4%減少しました。

リース・ファイナンス及びファクタリング部門の第4四半期の業績結果は、事業適応計画によって、マイナスの影響を受けました。リース・ファイナンスのオペレーションの「のれん代」償却費用2億4,700万ユーロ、フランス拠点網の当グループのリテール顧客に焦点を当てたビジネスによる影響などがあげられます。収益は、流動性コストが上昇しているにも係らず、回復力を示しました。フランスのリスク関連費用は著しく低下しましたが、海外ではギリシャとイタリアのリース・ファイナンスの出資分の減損(ギリシャは1年間で2011年度の第4四半期の9,300万ユーロを含む1億4,200万ユーロ。イタリアは1年間で第4四半期の1,000万ユーロを含む2,000万ユーロ)によるマイナスの影響を受けました。

#### 4. 資産運用、保険、プライベート・バンキング

資産運用、保険、プライベート・バンキング部門では、2011年度第4四半期の業績は二つの主要因により再びマイナスの影響を受けました。第1の要因は、保険部門の業績結果がギリシャ国債の減損費用によってマイナスの影響を受けたことです。第2四半期の1億3,100万ユーロ、第3四半期の7億6,400万ユーロの出資分の減損費用に続いて、1億8,600万ユーロがリスク関連費用に加えられました。その結果、ユーロ圏包括合意のギリシャ財政支援策が2011年度の保険部門のリスク関連費用に与えたマイナスの影響額は、合計で11億ユーロに達しました。2つ目の要因は下半期の極めて不振なマーケット環境であり、これが当事業部門全体の収益低下をもたらしました。2011年12月31日現在の資産運用額は1兆60億ユーロで(二重加算を除き8,085億ユーロ)、前年同期比5.4%減となりました。

こうした要因にもかかわらず、2011年度第4四半期の当事業部門の純利益グループ帰属分の1億8,500万ユーロ、1年では9億5,100万ユーロとなりました。欧州のギリシャ財政支援策の影響額を除いて、純利益グループ帰属分は2011年度第4四半期が3億1,300万ユーロ、2011年度が16億6,300万ユーロとなりました。

(in millions of euros)	Q4-11	Change Q4/Q4	2011	Change 2011/2010
Revenues	1,247	+1.6%	5,243	+5.2%
Operating expenses	(675)	+12.5%	(2,508)	+0.7%
<b>Gross operating income</b>	<b>572</b>	<b>(8.8%)</b>	<b>2,735</b>	<b>+9.7%</b>
Cost of risk	(195)	nm	(1,075)	nm
<b>Operating income</b>	<b>377</b>	<b>(38.9%)</b>	<b>1,660</b>	<b>(32.8%)</b>
Equity affiliates	3	+20.0%	11	x3.2
Net gain/(loss) on disposal of other assets	(1)	nm	(1)	nm
Change in the value of goodwill	-	nm	-	nm
<b>Pre-tax income</b>	<b>379</b>	<b>(38.0%)</b>	<b>1,670</b>	<b>(32.2%)</b>
Tax	(180)	(10.9%)	(620)	(22.6%)
Net income from discontinued activities	-	nm	-	nm
<b>Net income</b>	<b>199</b>	<b>(51.7%)</b>	<b>1,050</b>	<b>(36.9%)</b>
Minority interests	14	(59.6%)	99	(36.3%)
<b>Net income Group share</b>	<b>185</b>	<b>(50.9%)</b>	<b>951</b>	<b>(37.0%)</b>

資産運用部門では、アムンディ(2011年7月1日に買収されたBFTの資産運用オペレーションを含む)は、極めて不利なマーケット条件にもかかわらず、2011年度は僅かに業績を伸ばしました。2011年12月31日現在の運用資産は6,586億ユーロで、前年同期比7%減と僅かな減少に留まりました。また一方、CAC40インデックスは同期間で17%低下し、マーケット及び為替による167億ユーロのマイナスの影響を生みました。1年間の流出額は364億ユーロで、その流出の殆どは、フランス国内及び支店拠点網で組成したマネー・マーケット商品や、大手企業のオン・バランスシート商品への移行に因るものです。しかしアムンディの高い商品力とマーケティングが、その流出額を軽減しました。1年間でアムンディは従業員積立に37億ユーロの流入額がありました。またアジアでは30億ユーロ、海外の機関投資家からは

ソブリン・ファンドを中心として31億ユーロの流入額がありました。2011年度は、ETFファンドに17億ユーロの流入額があり、アムンディは欧州の資産運用会社の中で、ETFファンドにおいて第3位を占めました。

全体ではアムンディは年間の純利益が4億1,300万ユーロに達し、2011年度は前年同期比1.8%増と堅調な業績を達成しました。収益は、パフォーマンス・ベースの手数料減少と金利差益が横ばいだったことにより8.2%の減少となりました。逆に、営業費用の縮小(2010年の業務再編コストを除き2011年度は前年同期比で5.8%減少)は、生産性を改善するための努力の継続とシナジー効果を反映しています。コスト比率は55.9%で、欧州では最良の水準でした。第4四半期は、極めて困難だった第3四半期の後で、堅調な業務展開となりました。第4四半期の純利益は8,900万ユーロで、前年同期比12.2%増、コスト比率は54.3%でした。

**資産運用サービス部門**では、堅調な業務展開となり、厳しいマーケット環境の中、資産の減少を抑えることができました。底堅い業績は、主に幅広い商品(ミドル・オフィスへのソリューション等)と担保管理業務での目覚ましい伸びによるものです。カストディー資産は22億5,900万ユーロに達し、第4四半期は第3四半期とほぼ同様の結果となりました(0.2%減)。第4四半期の預り資産は前年同期比で僅かに2.8%減少し、10億4,000万ユーロとなりました。逆に、2011年度第4四半期の現金預金は36%増と大幅な伸びを見せました。2011年度の純利益は1億6,400万ユーロで、高い収益と費用の低下の相乗効果により、1年で12.4%増加しました。2011年度の収益は前年同期比1.8%増加、第4四半期は6.7%増加しました。これは収益源の多様化(資金部門のオペレーションからより高い収益が得られたこと、上場デリバティブスのクリアリング業務とレポ業務)及び費用低下によります。費用は2011年度には前年同期比で0.6%減少、第4四半期には4.0%減少しました。この減少は、継続的に高い運営効率を目指す経営努力を反映しています。全体では、営業総利益は年間で7.5%増加し、コスト比率は引き続き改善して2011年度は69.2%に低下しました。従ってカセイ(CASEIS)は、業界でも最優良企業の一つであるといえます。2011年度第4四半期は堅調な業務展開を反映して、純利益は4,800万ユーロと第3四半期よりも20.4%増加しました。

**プライベート・バンキング部門**は、下半期に金融危機が一段と悪化したにもかかわらず堅調な業績結果を達成しました。運用資産は1,263億ユーロと全体的に堅調でした。これは一方ではフランス国内の安定(572億ユーロ)に反映されており、主にLCL バンク・プリベのオン・バランスシートの預金の伸びが大きかったことによるものです。もう一方では、海外の運用資産が前年同期比2.6%減少し691億ユーロになりましたが、これは下半期のマーケットの不芳によるものです。

純利益グループ帰属分は、年間で大幅に5.9%増加し、1億1,300万ユーロとなりました。この堅調な業績結果は、収益の4.8%増加によるものです。

**保険部門**では、2011年12月31日現在の保険料収入が252億ユーロとなっています。

フランスの生命保険部門は、困難なマーケットの中でも回復力を示しました。当事業部門のマーケッ

ト・シェアは2011年度末で15.1%<sup>1</sup>に維持されました。2011年度の新規資金流入額は純額で25億ユーロでしたが、2010年よりも67%低い結果となりました。保険料収入も1年で14%<sup>2</sup>減少しました。2011年度の第4四半期の保険料収入は、2010年第4四半期に対し、23%減少しました。

フランスでは、損害保険部門が2011年度に優れた業績を達成しました。2011年度<sup>3</sup>の全ての商品の保険料収入が11%増の23億ユーロに達しました。これはマーケットの平均伸び率である4%<sup>2</sup>を遥かに上回りました。2011年度には、保険契約件はこれまでの最高契約記録を達成し、1年間で新規保険契約高は6%伸びて、180万件となりました。

フランスでは住宅ローンの保険を中心に団体信用保険が8%増加し、保険料収入は僅かな伸びを見せて、10億ユーロを若干上回りました。2011年度全体では、外国の子会社が、オペレーションを持つ全ての国において経済と金融マーケット環境が悪化したために、マイナスの影響を受けました。それでも、イタリアのオペレーションは良く持ちこたえて、19%<sup>5</sup>も縮小したマーケットにおいても生命保険の保険料収入は6%の減少に留まりました。

ギリシャ国債の減損費用前の2011年度の純利益グループ帰属分は、第4四半期の1億8,700万ユーロを含めて、11億1,000万ユーロとなりました。

2011年度では、ギリシャ国債は平均74%下落しました。リスク関連費用に認識された保険会社への出資分の減損は、1年間で10億8,100万ユーロに達しました。これには2011年度第4四半期の1億8,600万ユーロが含まれています。この出資分の減損は、移転収益からの認識により一部相殺されました。その認識分は、第4四半期の増加分(前年同期比5.1%増)を含めて、1年間で16.8%増加しました。2011年度第4四半期の営業費用は、前年同期比で73.7%増と、高い水準となっています。これは企業付加価値負担金(CVAE)の増加によるマイナスの影響を反映しており、第4四半期には6,900万ユーロに達しました。

それでもなお、保険事業は堅固なファンダメンタルズに支えられています。生命保険の運用資産は1年間で1.3%増の2,215億ユーロに達しました。これにはユーロ建の契約高1,810億ユーロ(12ヶ月で2.4%増)とユニット・リンク型保険の405億ユーロが含まれています。ユニット・リンク型保険は金融マーケットの悪化によりマイナスの影響を受けました。損害保険では、支払い請求件数は抑えられて、2011年12月末では68.6%<sup>6</sup>となりました。他の事業では、財務管理と保険業務のオペレーションの組織化が、新規のソルベンシーII基準を達成するために進められています。

---

1 12月末現在のFFSAの数値

2 2011年度の連結範囲に加えられたスピリカ(Spirica)を含める

3 2011年度のユニバーサル医療カバー税の規制変更による影響額を修正済み

4 12月末現在のFFSAの数値

5 IAMA の数値 - 2011年度11月

6 再保険を除いた件数

## 5. 法人営業及び投資銀行(CA-CIB)

2011年度第4四半期は2011年12月14日に発表された事業適応計画のコストを反映しており、その影響額は14億3,200万ユーロです。その結果、2011年度第4四半期の純利益グループ帰属分が12億4,300万ユーロの損失となり、年間では1億4,700万ユーロの損失となりました。

2011年12月14日の発表に合わせて、2011年度第4四半期の純利益グループ帰属分への事業適応計画の影響額は合計で14億3,200万ユーロとなりました。内訳は以下の通りです：

- 収益:2億5,800万ユーロ。但し当期以前のローン売却分を除く(2011年度期初からの9ヶ月累積では影響額1,100万ユーロ)。
- 営業費用:業務再編費用3億3,600万ユーロ。
- 「のれん代」償却費用10億5,300万ユーロ(全て資本市場及び投資銀行部門に帰属)。

同計画の実施により、流動性の必要額が2011年6月30日比で110億ユーロ削減されました。

事業適応計画影響前の、継続事業による純利益グループ帰属分は、社債発行とローン・ヘッジの再評価による再修正後のプラスの影響額を除き、2011年度は11億2,500万ユーロに達し、第4四半期だけで8,500万ユーロに達しました。これは長引く金融危機とファイナンス事業に対する流動性の大幅な制約による影響にもかかわらず、資本市場部門の事業活動に回復力があることを反映しており、事業適応計画の目標を達成のため良く管理されています。

1年間で、費用は1.4%減少しました(事業再編コスト前)。リスク関連費用は第3四半期には極めて低水準でしたが、第4四半期には増加しました。これは幾つかの特定取引に起因するものです。

非継続事業のコストは抑えられ、2011年度第3四半期の-1億6,400万ユーロに対し、第4四半期の純利益グループ帰属分への寄与は5,000万ユーロでした。

### 継続事業

(in millions of euros)	Q4-11	Q4-11*	Change Q4*/Q4*	2011	2011*	Change 2011*/2010*
Revenues	1,116	1,000	(26.1%)	5,750	5,176	(9.8%)
Operating expenses	(1,075)	(750)	(18.0%)	(3,676)	(3,351)	(1.4%)
<b>Gross operating income</b>	<b>41</b>	<b>250</b>	<b>(43.1%)</b>	<b>2,074</b>	<b>1,825</b>	<b>(22.0%)</b>
Cost of risk	(216)	(216)	nm	(329)	(329)	+17.1%
<b>Operating income</b>	<b>(175)</b>	<b>34</b>	<b>(92.7%)</b>	<b>1,745</b>	<b>1,496</b>	<b>(27.3%)</b>
Equity affiliates	30	30	(15.5%)	133	133	(4.3%)
Net gain/(loss) on disposal of other assets	7	7	nm	1	1	nm
Change in the value of goodwill	(1,053)	-	nm	(1,053)	-	-
<b>Pre-tax income</b>	<b>(1,191)</b>	<b>71</b>	<b>(85.4%)</b>	<b>826</b>	<b>1,630</b>	<b>(25.6%)</b>
Tax	73	(2)	(97.7%)	(585)	(503)	(14.3%)
Net income from discontinued activities	-	-	-	-	-	nm
<b>Net income</b>	<b>(1,118)</b>	<b>69</b>	<b>(82.2%)</b>	<b>241</b>	<b>1,127</b>	<b>(29.7%)</b>
Minority interests	(16)	(16)	nm	2	2	(96.0%)
<b>Net income Group share</b>	<b>(1,102)</b>	<b>85</b>	<b>(77.4%)</b>	<b>239</b>	<b>1,125</b>	<b>(27.6%)</b>

\*2011年度の事業適応計画のコスト前、社債発行とローン・ヘッジの再評価の修正後

## ファイナンス事業

(in millions of euros)	Q4-11	Q4-11*	Change Q4*/Q4*	2011	2011*	Change 2011*/2010*
Revenues	447	549	(25.0%)	2,425	2,512	(7.6%)
Operating expenses	(300)	(198)	(9.6%)	(982)	(880)	3.6%
<b>Gross operating income</b>	<b>147</b>	<b>351</b>	<b>(31.5%)</b>	<b>1,443</b>	<b>1,632</b>	<b>(12.7%)</b>
Cost of risk	(206)	(206)	nm	(319)	(319)	+94.7%
<b>Operating income</b>	<b>(59)</b>	<b>145</b>	<b>(73.1%)</b>	<b>1,124</b>	<b>1,313</b>	<b>(23.0%)</b>
Equity affiliates	30	30	(14.7%)	134	134	(3.1%)
Net gain/(loss) on disposal of other assets	11	11	nm	2	2	nm
Change in the value of goodwill	-	-	-	-	-	-
<b>Pre-tax income</b>	<b>(18)</b>	<b>186</b>	<b>(67.2%)</b>	<b>1,260</b>	<b>1,449</b>	<b>(21.1%)</b>
Tax	10	(63)	(47.9%)	(406)	(475)	+0.7%
Net income from discontinued activities	-	-	-	-	-	nm
<b>Net income</b>	<b>(8)</b>	<b>123</b>	<b>(72.4%)</b>	<b>854</b>	<b>974</b>	<b>(28.6%)</b>
Minority interests	(10)	(10)	nm	(4)	(4)	nm
<b>Net income Group share</b>	<b>2</b>	<b>133</b>	<b>(69.6%)</b>	<b>858</b>	<b>978</b>	<b>(26.1%)</b>

\*2011年度の事業適応計画のコスト前及びローン・ヘッジの再評価の修正後

2011年度第4四半期の収益は、事業適応計画の下でのローンの売却によるマイナスの影響額1億1,600万ユーロを反映しています。この売却に係るコストは、1年間で1億2,700万ユーロとなりました（うち500万ユーロは2011年度第3四半期のコスト）。収益も、ファイナンス事業の全ての事業部門の生産性が低かったことを反映しています。2011年度の第4四半期は前年同期比で25%減少、1年間では7.6%減少しました。

2010年第4四半期のローン・ヘッジによる影響額は僅かに留まりました。2011年度第3四半期の収益は1,300万ユーロ、2010年第4四半期の収益は600万ユーロだったのに対し、2011年度第4四半期は1,400万ユーロとなりました。

第4四半期は、ストラクチャード・ファイナンス部門が前年同期比2.7%減少しました。2011年度の第3四半期の高い収益との比較においては10.7%減少しました。これは支払い及び短期ファイナンス事業（輸出クレジット、貿易ファイナンス、コモディティ・ファイナンス）に影響を与えました。それにもかかわらずクレディ・アグリコルCIBはEMEA地域のプロジェクト・ファイナンスにおける地位を強化し、当地域で第3位から第2位へと順位が上昇（出典：トンブソン・ファイナンシャル）しました。

2011年度の第4四半期の商業銀行部門の収益は、前年同期比52.1%減少し、第3四半期比35.5%減少しました。2011年度第3四半期の2億4,600万ユーロ（ローンの売却前）から、第4四半期には1億5,800万ユーロに減少しています。これは流動性コストが上昇したことで、資産売却の影響を直接受けたことを反映しています。クレディ・アグリコルはシンジケーションでは確固とした地位を維持しました。「フラン

スではリーダー的立場にあり、EMEA地域と西ヨーロッパでは第3位から第2位に上昇しました。」(出典：トムソン・ファイナンシャル)

リスク関連費用は、これまでの数四半期にわたって極めて低い水準にありましたが(2011年度期初から9ヶ月累計では1億1,300万ユーロ)、第4四半期のリスク関連費用は特定引当金の増額に対応して2億600万ユーロ増加しました。2011年12月31日現在の一般引当金は横ばいとなりました。

## 資本市場及び投資銀行部門

(in millions of euros)	Q4-11	Q4-11*	Change Q4*/Q4*	2011	2011*	Change 2011*/2010*
Revenues	670	452	(27.5%)	3,325	2,664	(11.8%)
Operating expenses	(776)	(553)	(20.6%)	(2,694)	(2,471)	(3.1%)
Gross operating income	(106)	(101)	+37.4%	631	193	(59.0%)
Cost of risk	(10)	(10)	+14.0%	(10)	(10)	(91.2%)
Operating income	(117)	(111)	+34.8%	621	183	(48.2%)
Equity affiliates	(1)	(1)	+40.0%	(1)	(1)	nm
Net gain/(loss) on disposal of other assets	(2)	(2)	nm	(1)	(1)	nm
Change in the value of goodwill	(1,053)	-	-	(1,053)	-	-
Pre-tax income	(1,173)	(114)	+38.2%	(434)	181	(48.9%)
Tax	63	61	nm	(179)	(28)	(75.1%)
Net income from discontinued activities	-	-	-	-	-	nm
Net income	(1,110)	(53)	(8.6%)	(613)	153	(36.0%)
Minority interests	(7)	(7)	nm	6	6	(31.5%)
Net income Group share	(1,103)	(46)	(20.1%)	(619)	147	(36.2%)

\*2011年度事業適応計画のコスト前、社債の再評価修正後

2011年度第4四半期の資本市場及び投資銀行部門の収益には、社債発行の再評価による影響額2億2,800万ユーロが含まれています。

金融危機が長引く中、この影響額を除いた場合で、資本市場部門の収益は減少しました。特に第4四半期の債券部門の収益は、第3四半期の2億2,500万ユーロと2010年第4四半期の2億2,800万ユーロに対し、1億4,800万ユーロとなりました。資金部門は、流動性危機によって引き続き悪影響を受けました。反対に、債券資本市場部門は、堅調な業績を達成しました。これは主に債券発行市場が回復してきたことが要因です。CA-CIBは、ユーロ債全体のリーグテーブルで2ランク上昇し、現在第5位を占めています。

2011年度第4四半期の株式部門の収益も減少し、第3四半期の3億4,400万ユーロと2010年第4四半期の3億9,400万ユーロに対し、3億400万ユーロとなりました。株式ブローカレッジ業務は、欧州とアジア全般で取引高が減少したため、マイナスの影響を受けました。

最大損失予想額(VaR)は抑えられて、2011年12月31日現在1,560万ユーロの低水準となりました。

## 非継続事業

(in millions of euros)	Q4-11	Q4-11*	Change Q4*/Q4*	2011	2011*	Change 2011*/2010*
Revenues	(212)	(80)	+5.3%	(314)	(182)	(51.3%)
Operating expenses	(33)	(22)	(24.1%)	(108)	(97)	(10.2%)
<b>Gross operating income</b>	<b>(245)</b>	<b>(102)</b>	<b>(2.9%)</b>	<b>(422)</b>	<b>(279)</b>	<b>(42.1%)</b>
Cost of risk	3	3	nm	(175)	(175)	(48.7%)
<b>Operating income</b>	<b>(242)</b>	<b>(99)</b>	<b>(27.7%)</b>	<b>(597)</b>	<b>(454)</b>	<b>(44.8%)</b>
Equity affiliates	-	-	-	-	-	-
Net gain/(loss) on disposal of other assets	-	-	-	-	-	-
Change in the value of goodwill	-	-	-	-	-	-
<b>Pre-tax income</b>	<b>(242)</b>	<b>(99)</b>	<b>(27.7%)</b>	<b>(597)</b>	<b>(454)</b>	<b>(44.8%)</b>
Tax	97	45	2.3%	202	150	(43.6%)
Net income from discontinued activities	-	-	-	-	-	-
<b>Net income</b>	<b>(145)</b>	<b>(54)</b>	<b>(41.9%)</b>	<b>(395)</b>	<b>(304)</b>	<b>(45.4%)</b>
Minority interests	(4)	(4)	nm	(9)	(9)	(25.0%)
<b>Net income Group share</b>	<b>(141)</b>	<b>(50)</b>	<b>(45.1%)</b>	<b>(386)</b>	<b>(295)</b>	<b>(49.5%)</b>

\* 事業適応計画の影響額修正後

第4四半期の非継続事業は純利益に対し、1億4,500万ユーロのマイナス寄与となりました。これには12月の事業適応計画にある米国住宅ローン担保証券のポートフォリオの売却に関連するコスト1億3,200万ユーロが含まれています。

この売却による影響額を除いた場合、CDO、ABS、CLOの収益は、2011年第3四半期が2,900万ユーロのプラスを計上したのに対し、第4四半期は1億2,700万ユーロの損失となりました。現在の流動性コストを考慮した減損率をアップデートすることによって、自己勘定取引のCDOの評価から1億2,500万ユーロのマイナスの影響が出ましたが、損失にはこの影響額が含まれています。コリレーション事業では、第4四半期にスプレッドが縮小したため、保証人リスクにとってプラスの影響を生みました。その結果、第4四半期のコリレーション事業の収益は3,900万ユーロとなりました。

リスク関連費用は、第3四半期に1億ユーロと大きかったのに対し、第4四半期は純額で300万ユーロにとどまりました。

CA-CIBとブルー・マウンテンは、2012年内にコリレーション事業のマーケット・リスク・エクスポージャーを移管する契約を結びました。2011年度には、この取引による財務的な影響はありませんでした。

## 6. コーポレート・センター

(in millions of euros)	Q4-11	Change Q4/Q4	2011	Change 2011/2010
Revenues	(126)	(68.9%)	(712)	(31.1%)
Operating expenses	(290)	(3.2%)	(975)	+4.9%
Gross operating income	(416)	(41.1%)	(1,687)	(14.1%)
Cost of risk	(263)	nm	(340)	x11.6
Operating income	(679)	(5.7%)	(2,027)	+1.7%
Equity affiliates	(2)	nm	(26)	(97.7%)
Net gain/(loss) on disposal of other assets	1	nm	(4)	(97.4%)
Change in the value of goodwill	(1)	nm	(1)	nm
Pre-tax income	(681)	(65.6%)	(2,058)	(37.9%)
Tax	224	(62.3%)	796	(23.8%)
Net income from discontinued activities	-	nm	(5)	x4.2
Net income	(457)	(67.0%)	(1,267)	(44.3%)
Minority interests	42	(1.6%)	181	(1.7%)
Net income Group share	(499)	(65.1%)	(1,447)	(41.1%)

2011年度第4四半期は-1億2,600万ユーロの損失となり、2010年第4四半期と比べ、大幅に改善されました。この改善は、主に2011年度第1四半期からインテサ・サンパオロの配当が認識されたことにより、配当が増加したことを反映しています。2011年度のリスク関連費用は、前年同期比で著しく増加しました。リスク関連費用には、リース・ファイナンス事業のための9,700万ユーロの引当金と、エンポリキに対する保証が終了することに伴う1億600万ユーロの引当金が含まれています。

2011年12月23日、地域銀行の株式持ち分に関連して、クレディ・アグリコルS.A.が保有するリスク加重資産を地域銀行に移管する変換保証が実施されましたが、純利益にはほとんど何の影響もありませんでした。2011年12月16日、クレディ・アグリコルS.A.とコラー・キャピタル(Coller Capital)は、クレディ・アグリコル・プライベート・エクイティ(Credit Agricole Private Equity)の売却の契約を結びました。この取引は、2012年第1四半期中に完了する予定です。

2011年度、コーポレート・センターのクレディ・アグリコルS.A.の純利益グループ帰属分に対する寄与は-14億4,700万ユーロで、2010年と比べ大幅に改善しました。2010年の業績結果は、臨時的項目によって悪影響を受けました。臨時的項目とは以下の通りです。クレディ・アグリコルS.A.が保有するインテサ・サンパオロの株式の売却(その他の資産の売却による純損益に対するマイナス影響額1億7,100万ユーロ)が出ました。2010年第4四半期に株主持分を連結除外したことで、関連会社からの利益の持分にマイナスの影響額12億4,300万ユーロが出ました。また、生命保険に対する資産移転譲渡税により、税金に4億ユーロのプラスの影響額を生みました。

## クレディ・アグリコル・グループ連結決算

2011年度、クレディ・アグリコル・グループは、フランス経済に金融サービスを提供する主要な金融機関としての地位を確認しました。また、厳しい経済状況とマーケット環境においても、着実な業務収益性を維持する能力も確認することができました。

貸出資産は1年間で395億ユーロ増加しました。これは主にフランスのリテール・バンキング部門だけで組成された新規ローンの960億ユーロによるものです。資金調達源に関して、当グループのオン・バランスシートの顧客資産は前年同期比7%増加しました(430億ユーロ以上の増加になります)。2011年度末、オン・バランスシートの預金は、前年の42%に対し顧客資産全体の45%に相当します。貸出/預金比率は、第4四半期中に大幅に改善しました。12ヶ月間では2.0%上昇し、2011年12月31日現在で120%となりました。

クレディ・アグリコル・グループは、2011年度に351億2,900万ユーロの収益を生み、2010年比2.7%の増加となりました。これには、2011年度第4四半期の82億4,300万ユーロが含まれます(2010年第4四半期より2.5%減少)。事業適応計画(The adaptation plan)による影響前の収益は前年同期比0.6%増の85億ユーロに達しました。この上向きな傾向は、堅固な事業展開と当グループの事業部門の全てのセグメントで着実な収益力があることを反映しています(エンポリキを除く)。

12ヶ月間で営業費用が3.7%増加後、当グループのコスト比率は2011年度末現在61.6%でした。営業費用には、ニース・プロジェクトと事業適応計画のコストが含まれています。事業適応計画のコストを除いた場合、費用は前年同期比1.9%の増加にとどまりました。

2011年度の営業総利益は、135億ユーロに増加し、前年同期比1.1%増、事業適応計画コストを除いた場合5.9%増となりました。

リスク関連費用には、欧州包括合意のギリシャ財政救済策のコストと事業適応計画のコストが含まれており、2010年から2011年の間に29.2%増加しました。2011年度第4四半期には、第3四半期に計上された事業適応計画による影響額のため、前年同期比79.3%増加しました。2011年度第4四半期のリスク関連費用は、信用残高の74ベース・ポイントに相当します(事業適応計画による影響額を除いた場合70ベース・ポイントに相当)。

2011年度第4四半期の出資分の減損には、CA-CIBと専門金融サービスの事業適応計画の「のれん代」償却費用、関連会社バンキンターとBESの拠点国の経済悪化によるそれら2社への出資分の減損、並びに減損比率の調整から生じたイタリアとウクライナの会計上の減損費用が含まれています。

決算報告では、2010年第4四半期から2011年度第4四半期の間に税金が27.0%増加しました。但し、2010年は、資産移転譲渡税によるプラスの効果を含んでおり、一方2011年度は、控除対象外の出資価額の減損と税法で制定された法人税の増加を含んでいます。

全体的には、2011年度の純利益グループ帰属分は、第4四半期のみ25億2,600万ユーロの純損失を含む8億1,200万ユーロとなりました。

(in millions of euros)	Q4-11	Change Q4/Q4	2011	Change 2011/2010
<b>Revenues</b>	8,243	(2.5%)	35,129	+2.7%
Operating expenses	(5,868)	+8.1%	(21,629)	+3.7%
<b>Gross operating income</b>	2,375	(21.5%)	13,500	+1.1%
Cost of risk	(1,908)	+79.3%	(6,708)	+29.2%
<b>Operating income</b>	467	(76.2%)	6,792	(16.8%)
Equity affiliates	(947)	(22.7%)	(789)	(12.3%)
Net gain/(loss) on disposal of other assets	18	nm	10	nm
Change in the value of goodwill	(1,671)	nm	(2,049)	x4.3
<b>Pre-tax income</b>	(2,133)	nm	3,964	(40.0%)
Tax	(351)	+27.0%	(2,851)	+12.3%
Net income (after tax) from discontinued activities	-	nm	14	(33.8%)
<b>Net income</b>	(2,484)	nm	1,127	(72.4%)
<b>Net income Group share</b>	(2,526)	nm	812	(77.5%)

\*\*\*\*\*

クレディ・アグリコル S.A.の 2011 年度及び 2011 年度第 4 四半期の財務情報は、当プレスリリースと添付プレゼンテーションから構成されています。全ての規制情報は、登録情報も含めて、[www.credit-agricole.com/Finance-and-Shareholders](http://www.credit-agricole.com/Finance-and-Shareholders) の財務情報で入手することが可能です。これらの情報は、フランス金融市場監督庁の定める L. 451-1-2 of the Code Monétaire et Financier and articles 222-1 et seq. of the AMF General Regulation の規定に従って、クレディ・アグリコル S.A.により公開されています。

**Investor relations +33 (0) 1 43 23 04 31**

Denis Kleiber	+ 33 (0) 1 43 23 26 78		
Nathalie Auzenat	+ 33 (0) 1 57 72 37 81	Fabienne Heureux	+ 33 (0) 1 43 23 06 38
Colette Canciani	+ 33 (0) 1 43 23 45 93	Marie-Agnès Huguenin	+ 33 (0) 1 43 23 15 99
Sébastien Chavane	+ 33 (0) 1 57 72 23 46	Aurélie Marboeuf	+ 33 (0) 1 57 72 38 05

Disclaimer

This presentation may include prospective information on the Group, supplied as information on trends. This data does not represent forecasts within the meaning of European Regulation 809/2004 of 29 April 2004 (chapter 1, article 2, § 10).

This information was developed from scenarios based on a number of economic assumptions for a given competitive and regulatory environment. Therefore, these assumptions are by nature subject to random factors that could cause actual results to differ from projections.

Likewise, the financial statements are based on estimates, particularly in calculating market value and asset depreciation.

Readers must take all these risk factors and uncertainties into consideration before making their own judgement.

Applicable standards and comparability

The figures presented for the nine-month period ending 30th September 2011 has been prepared in accordance with IFRS as adopted in the European Union and applicable at this date. This financial information does not constitute a set of financial statements for an interim period as defined by IAS 34 "Interim Financial Reporting".